

奨学金に関するアンケート調査結果(概略版)

中央労福協

【調査結果のポイント】

◆「知っている」人が少ない奨学金制度の内容

奨学金制度について示した 7 項目について「知っている」の比率をみると、[貸与人数・金額は有利子の方が多] が 44.6%で最も多いが、それでも半数に満たない。以下、[日本人への奨学金は貸与型しかない] (39.5%) と [返還の期限を猶予する制度がある] (38.6%) が 4 割弱、[自宅等へ電話等の督促が行われる] (27.5%) と [3 ヶ月以上の延滞はブラックリスト] (23.5%)、[延滞は年 5%の延滞金が賦課される] (22.3%) が 2 割台、[教員の返済免除制度は廃止された] (16.0%) が 1 割台となっており、多くの方が日本学生支援機構の奨学金制度の内容をそれほどわかっていない。

◆34 歳以下の奨学金制度利用者が 2 人に 1 人、リスクを十分に理解することなく借りる人が 4 割強

学生時代の奨学金制度の利用状況をみると、若い層ほど「利用した」が多くなっており、34 歳以下では「利用した」が 53.2%と 2 人に 1 人が制度を利用する結果となっている。

なお、奨学金制度を利用した際の奨学金の返還条件や滞納リスクなどについての理解度では、「あまり理解していなかったと思う」(32.9%) と「まったく理解していなかったと思う」(8.2%) を合わせた「理解していなかった」が 4 割強を占め、リスクを十分に理解しないまま借りる人が少なくないといえる。

◆奨学金の返還を「苦しい」と感じる人は正規で 37%、非正規では 56%

奨学金の借入総額は、平均 312.9 万円で、月の返還額の平均は約 17,000 円である。ただし、借入総額が「500 万円以上」である層も 1 割みられ、これらの層では月 30,000 円以上の返還をしている人が 4 割を占めている。

奨学金返還の負担感については「少し苦しい」が 27.7%、「かなり苦しい」が 11.3%で、これらを合わせた「苦しい」が 4 割近くに及ぶ。なお、雇用形態別で「苦しい」の比率をみると正規でも 36.8%、非正規労働者では 56.0%と半数を超える。

◆正規で 500 万円、非正規で 200 万円以上の借入れがあると「結婚」に影響

奨学金の返還が生活設計に影響を及ぼしているかどうかをライフイベントごとにたずねた結果、「影響している」の比率は、「結婚」が 31.6%で最も高く、「持家取得」(27.1%) と「仕事や就職先の選択」(25.2%)、「子育て」(23.9%)、「出産」(21.0%) も 2 割台となっている。

このうち、「結婚」に注目して借入総額別でみると、正規労働者では 500 万円以上、非正規労働者では 200 万円以上の借入れがあると「影響している」が約半数を占めるようになる。

【実施概要】

本調査は奨学金の利用実態や問題点を明らかにし、政策・制度の改善につなげることを目的に実施したものである。時期は2015年7～8月、方法は自記入式のアンケート調査である。調査対象者は勤労者とし、地方労福協のほか、UAゼンセン、自治労、日教組、JP労組、労協連から各300部を配布することをベースにした。なお、追加できる組織については割り当て数を増やして対応した結果、最終的な配布数は17,981枚となった。有効回収は13,342枚で、有効回収率は74.2%である。

【第1章 調査対象者のプロフィール】

・非正規社員・職員が15.1%、その年収は男性が300万円前後、女性では200万円強

プロフィールをみると、性別は男性が72.0%、女性が28.0%である。年齢構成は10代から60代まで幅広く分布しており、平均年齢は41.8歳となっている。最終学歴は「高校」が36.5%、「大学」が41.7%、「大学院」が7.1%であるが、34歳以下では「大学」が59.9%、「大学院」が15.7%を占めている。雇用形態は「正規社員・職員」が82.9%と多く、＜非正規社員・職員＞は15.1%である。

配偶者は「いる」が68.9%だが、34歳以下では33.4%と3人に1人とどまる。また、子どもは「いる」が64.9%で、いる場合の人数は平均2.1人である。子どもの成長段階は年齢によって異なっているが、今回サンプルにおいて高校生以上の子どもがいる層は60.3%と6割を占めている。世帯の主な収入源は、「自分の収入だけ」が37.4%、「自分と配偶者の正規収入」が27.7%、「自分と配偶者の非正規収入」が19.9%などである。本人の昨年年収は平均483.5万円であるが、非正規労働者の場合は男性で300万円前後、女性では200万円強にとどまる。なお、世帯年収は平均616.3万円である

【第2章 生活に関する意識】

・中高年層は“貯蓄”、非正規社員・職員は“収入水準”への＜不満＞が多数

生活の状況についてその満足度をみると、[生活全体]の満足度は比較的高いことが明らかになっている。ただし、中高年層を中心に[貯蓄]への＜不満＞が多数を占めていること、非正規労働者で[収入水準]に対する＜不満＞が大きいことなどが確認されている。

さらに、今後に必要な備えではライフステージによる違いが大きく、「老後の生活資金」や「介護資金」は中高年層でより多くあげられるのに対し、若年層では「住宅関連」や「結婚資金」などが上位にあがる。ただし、民間保険や共済への加入率は高めで、今後の備えをしている人も少なくない。

【第3章 教育や奨学金に対する意識】

- ・奨学金制度の内容は“知らない”人が多数
- ・利用した人であっても“返還猶予制度”を知らない人が3割以上

教育費の負担や奨学金についての意識は [高等教育の学費は高い] や [奨学金返還は返済能力を考慮すべき]、[経済力の差が教育の差を生む] など<そう思う>が多数を占め、多くの人に共通した考えといえる。これに対し [公的奨学金は給付型制度にすべき] や [高等教育の学費は本人が負担すべき]、[借金をしてでも大学進学すべき]、[高等教育の授業料は無償化すべき] は意見が割れている。

日本学生支援機構の奨学金制度の内容について<知っている>の比率でみると [教員の返済免除制度は廃止された] は1割台、[延滞は年5%の延滞金が賦課される] や [3カ月以上の延滞はブラックリストに載る]、「自宅等へ電話等の督促が行われる」も2割台にとどまる。学生支援機構で奨学金制度を利用した人が多い34歳以下層で「知っている」比率は全体にやや高いものの、35歳以上ではかなり低くなっている。さらに、当然ながら、実際に利用したかどうかで知っているかどうかは大きく異なっており、利用しなければ若い層であっても奨学金についてほとんど知らない状態といえる。ただし、制度を利用した層であっても知らない項目も多く、[返還の期限を猶予する制度がある]についても3割以上がこれを知らずに制度を利用している。

【第4章 奨学金制度の利用状況】

- ・34歳以下では奨学金制度を利用している人が2人に1人、第二種（有利子）が最も多い
- ・借入総額は平均312.9万円で、非正規社員・職員では返還が<苦しい>が56.0%
- ・返還による生活設計への影響は“結婚”や“持家取得”で3割前後

学生時代の奨学金制度の利用状況をみると、若い層ほど「利用した」が多くなっており、34歳以下では2人に1人が利用している結果となっている。なお、利用状況をみるに当たっては、学生支援機構での制度利用者が多い34歳以下層に絞って利用状況を確認していく。

まず、利用していた奨学金は、「日本学生支援機構・第二種・有利子」が6割と最も多く、「日本学生支援機構・第一種・無利子」が4割台半ばである。奨学金制度を利用していた理由については、「家庭の経済的負担を軽くする」が突出して多くなっており、これに「学費の一部にする」や「生活費の一部にする」が続いている。

借入総額は平均312.9万円で、返還は「続いている」が8割強と多数である。月の返還額は平均1.7万円で、返還期間は平均14.1年となっている。なお、返還の負担感については「苦しい」が4割弱みられ、非正規労働者では56.0%と半数以上が「苦しい」としている。

返還者は「本人」が9割超を占めるものの、「親」が1割強みられ、非正規労働者では4人に1人は親が返還したケースもある（あった）ことが確認できる。なお、返還の延滞については「したことがある」は1割台と多くはないが、非正規労働者では4人に1人が延滞を経験している。親が返還したり、延滞した理由は「収入が少ない」が最も多いが、非正規労働者では「失業している」や「雇用や収入が不安定」も少なくない。

奨学金制度を利用した際のリスクへの理解度について、<理解していた>は6割弱で正規と比べて非正規で理解度がやや低い。

奨学金返還による生活設計への影響は、[結婚] や [持家取得] にく影響している>という人が 3割前後、[仕事や就職先の選択] や [子育て]、[出産] が 2 割台である。とりわけ、非正規労働者においては影響を受けている人がいずれのライフイベントでも 3~4 割程度みられる。さらに、借入額が多いほど影響度が高まる傾向も確認されている。

【第 5 章 家族の奨学金について】

- ・子どもが奨学金制度をく利用している>人が 3 人に 1 人、第二種（有利子）が 3 分の 2
- ・親が返還しているケースも 1 割みられる

配偶者の奨学金についても学生支援機構の利用を中心に確認するため、34 歳以下層に絞ってみていく。配偶者に返還が必要な奨学金がくある・あった>とした人は 2 割で、月の返還額を尋ねた結果は平均 1.6 万円、返還期間は平均 13.3 年となっている。

次に子どもについてみていく。高校生未満の子どもがいる人に将来の教育費の想定を聞くと「月々の収入でやりくり」と「資金の積立・貯蓄」がともに 4 割台で上位 2 項目、これに「学資保険等に加え」が 3 割台、「教育ローンを組む」と「奨学金制度を利用する」が 2 割前後で続く。正規と比べると非正規で「奨学金制度を利用する」が多い。

子どもの奨学金制度の利用においては、有利子利用者が年々増加しているが、本調査における子どもの奨学金制度の利用については、<利用している>が 33.3%で、子どもが多くなるにつれ、利用率は高まる。奨学金の種類では「日本学生支援機構・第二種・有利子」が 3 分の 2 を占めている。

子どもの奨学金利用においては、連帯保証人に「なっている」が多数で、毎月の貸与額は平均で 5~6 万円程度、返還もはじまっていないケースが多い。なお、返還がはじまっている場合には「本人」が返している方が多いものの、「親である自分」も 1 割程度みられる。その理由は、「教育費負担は親の責任」と「子どもの収入が少ない」が上位 2 項目である。

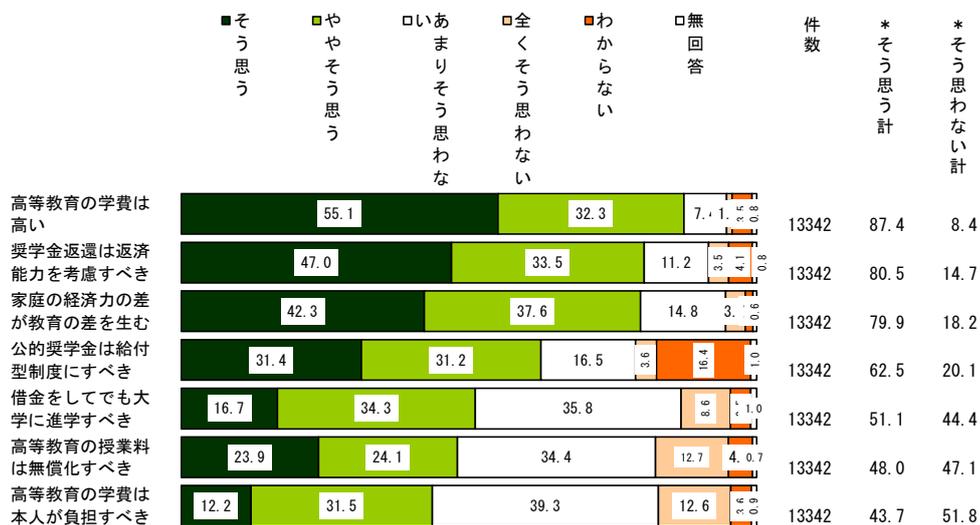
【結果のポイント】

・ 高等教育の学費の高さは共通認識だが、教育費の無償化には慎重

全体の結果からみると、今回サンプルは生活全体に対する満足度が高めで、収入水準や働き方などに満足できている人が多い。ただし、現状には満足している人が多くとも、貯蓄への不満や将来への備えの状況などから、将来については不安感が大きいことがうかがえる。さらに、なかには収入水準の低い人や非正規雇用で生活が不安定な人もおり、現状で厳しい生活をしている層も含まれる。

この生活の現状を踏まえ、教育費や奨学金に対する意識をみると“高等教育の学費の高さ”や“奨学金返還は返済能力を考慮する”、“経済格差＝教育格差”の3点はおおむね共通認識になっている（第0-1図）。他方、“公的奨学金は給付型へ”や“高等教育の学費は本人負担”、“借金してでも大学へ”、“高等教育の授業料は無償化”の4点は意見がわかれており、若年層ほど慎重な意見が多い。返還における返済能力の考慮はしても、受けた分の教育費や借りたものは本人が返すべきという意識が少なくない。

第0-1図 教育費の負担や奨学金について

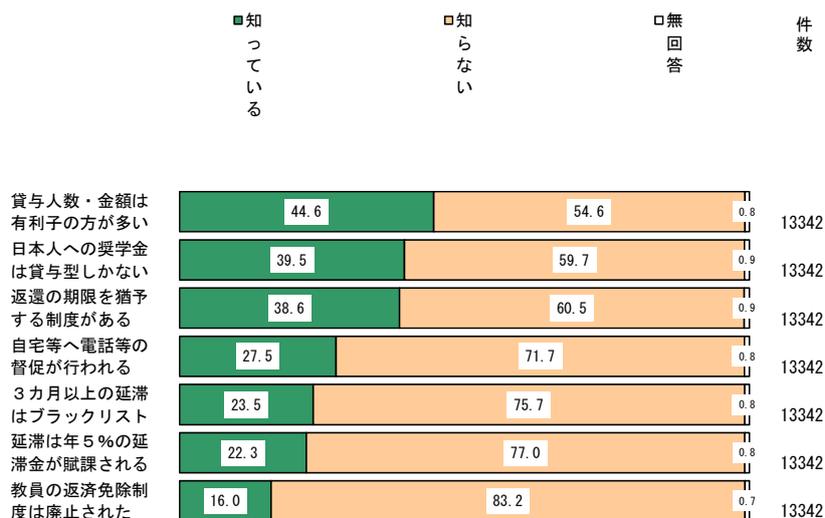


・ 奨学金制度の内容を“知っている”人は少ない
 ・ 利用した人でも延滞金の賦課やブラックリストに載ることは知らない人が多数

このような意識の根底には、旧日本育英会時代の奨学金のイメージがまだまだ根強いことがあると思われる。実際に、日本学生支援機構に変わってからの奨学金制度の内容を知っている人は少ないことが明らかになっており、最も「知っている」が多い[貸与人数・金額は無利子より有利子の方が多い]でも全体の半数以下である（第0-2図）。さらに、利用した人であっても、教員の返済免除制度の廃止や延滞すると延滞金が賦課されたりブラックリストに載ること等はあまり知られていない。利用する本人はもちろん、親や教員の制度に対する周知度・理解度の向上とともに、利用しない人にも制度の実態を伝えるなど、奨学金に対する認識を社会的に深めていくことが求められよう。

ここで、日本学生支援機構における奨学金制度の利用実態からみてきたことを確認したい。34歳以下の若年層における利用者はおおむね2人に1人で、利用者の6割が“有利子”のものを家庭の経済負担の緩和や学費・生活費の補てんを理由に借りている。借入額については、200万円台を中心に

第0-2図 日本学生支援機構（日本育英会の後身）の奨学金制度を知っているかどうか

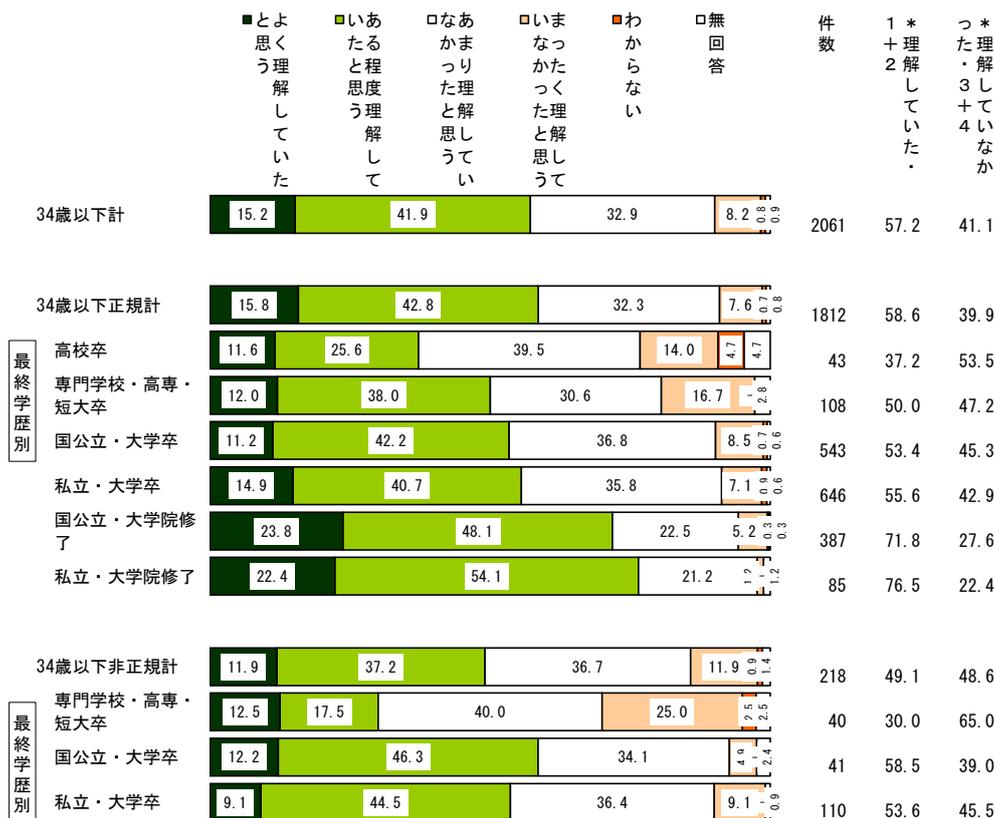


100～400 万円の間には 3 分の 2 が分布するが、500 万円以上も借りている層も 1 割強みられる。ちなみに、当たり前ではあるが、借入額が多い人ほど返還額も多くなり、借入総額が 500 万円以上の層では月 3 万円以上の返還をしている人が 4 割に及ぶ。なお、借入額が多い人ほど借りた理由に“学費”をあげる人が多くなっている。

・奨学金制度の返還条件や滞納リスクを理解せずに借りる人も多い

学歴や借入れ状況と返還条件や滞納リスクなどについての理解度の関連をみると、学歴が大学院修了者は<理解していた>が 7 割台と多数を占めるものの、それ以外は<理解していなかった>が 4 割程度と少なくない（第0-3図）。有利子であったり借入額が多くなっても、大学くらいまではリスクを理解しないまま借りてしまう現状があるといえよう。

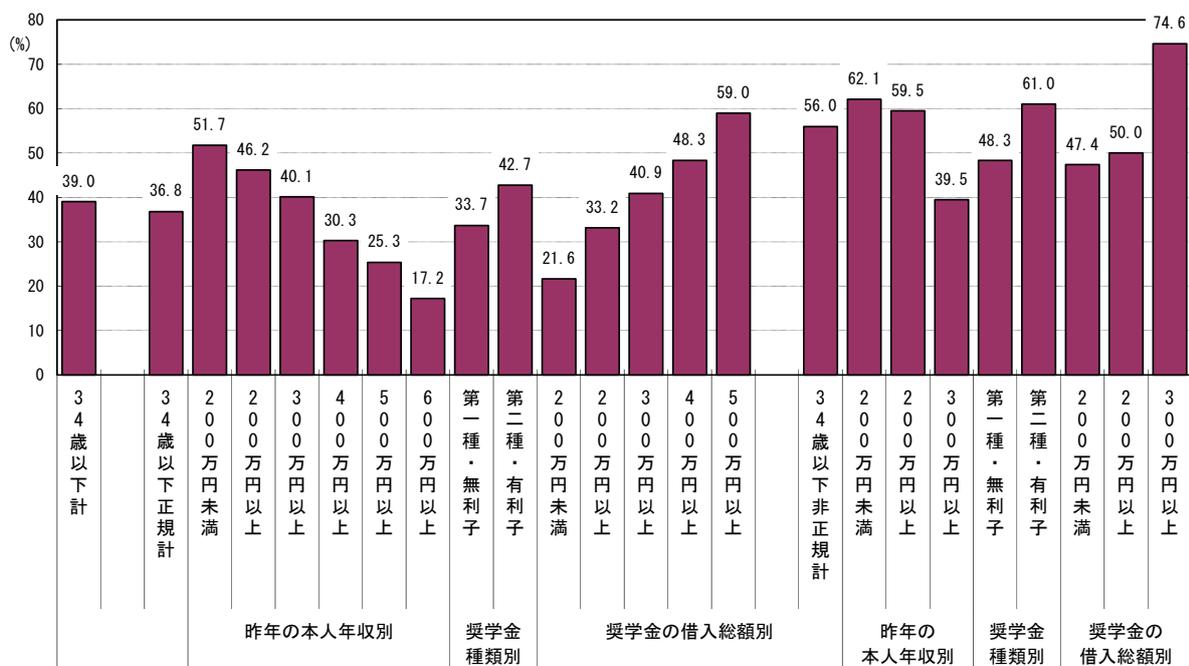
第0-3図 奨学金制度を利用した際の返還条件や滞納リスクなどの理解度（34歳以下の制度利用者）



・収入水準の低い人、有利子を借りた人、借入総額の多い人で<苦しい>返還

このようにさほど理解せずに借りてしまった結果、有利子を借りた層や借入額の多い層ほど<苦しい>とする人が多くなる（第0-4図）。さらに、返還負担は収入水準とも強く関連し、所得が伸びないと返還の苦しさが解消できない状況も浮き彫りになっている。

第0-4図 返還の負担感（<苦しい>の比率、34歳以下の制度利用者）



- ・生活設計に影響を及ぼす奨学金の返還負担、34歳以下の10~15%が“結婚”に影響あり
- ・正規500万円以上、非正規200万円以上の借入れで“結婚”に影響のあった人が半数

この返還負担は生活設計にも影響を及ぼしている（第0-1表）。例えば“結婚”についてみれば、利用した人がおおむね2人に1人、さらに利用者の中で<影響している>とした人が3割を占めることから、34歳以下全体でみても15%程度は奨学金の返還が“結婚”に何らかの影響を及ぼしているということになる。これ以外のライフイベントについても、34歳以下全体の10~15%程度の影響が確認されており、10人いれば1人か2人は奨学金返還の影響が生活に出ていることになる。なお、借入額が上がるほどにこの影響は色濃くなり、結婚に注目すると、正規労働者で500万円以上、非正規労働者では200万円以上の借入れがあると<影響している>が半数近くを占めるようになる。

具体的に影響についての記入では、「お金がないから結婚資金がない。（男性・26歳・正規）」や「借金があるだけで結婚は躊躇してしまう。（女性・32歳・非正規）」などの結婚への直接的な影響をいうものだけでなく、「奨学金の返還があるため、結婚、出産、子育てと人生のイベントについても仕事を休んだり、辞めたりしたくても収入がなくなるという不安が常につきまとう。（女性・27歳・正規）」といった不安感を示すものもある。なお、実際に「貯蓄が進まず、結婚資金があまり用意できなかったり、出産の病院も費用も最優先に選んだ。また、子どものために、マンション購入を検討したが、はじめの手付金を支払うほどの貯蓄がなく断念した。（女性・31歳・正規）」といったものがみられた。

第0-1表 奨学金返還による生活設計への影響（＜影響している＞の比率）
（34歳以下の制度利用者）

		結婚	出産	子育て	持家取得	仕事や就職先の選	件数
34歳以下計		31.6	21.0	23.9	27.1	25.2	2061
34歳以下正規計		31.2	20.1	23.1	26.5	23.9	1812
奨学金の借入総額別	200万円未満	<u>23.9</u>	16.8	<u>16.8</u>	<u>16.5</u>	<u>17.0</u>	393
	200万円以上	27.2	16.5	21.0	25.9	<u>19.3</u>	618
	300万円以上	31.5	17.9	21.9	25.1	26.2	279
	400万円以上	40.3	25.8	29.7	33.5	30.5	236
	500万円以上	50.0	35.8	39.2	45.3	43.4	212
34歳以下非正規計		36.2	28.0	30.3	32.6	36.2	218
入奨学金額の借	200万円未満	<u>21.1</u>	22.8	26.3	28.1	33.3	57
	200万円以上	48.5	30.9	30.9	35.3	42.6	68
	300万円以上	46.3	32.8	35.8	37.3	38.8	67

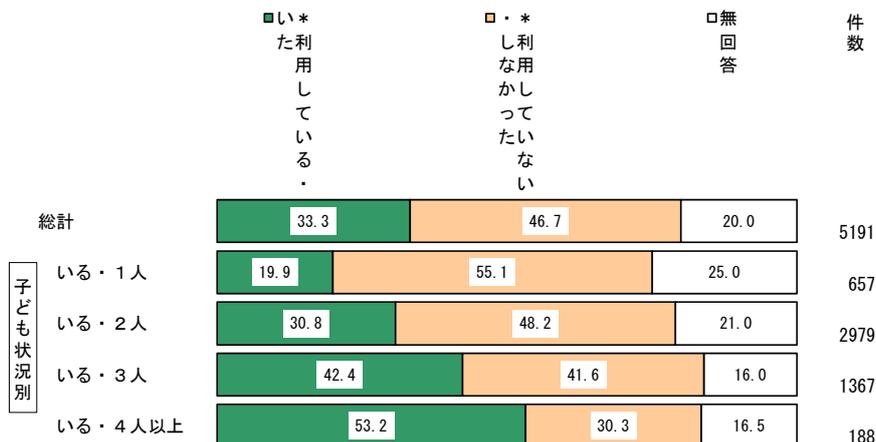
※下線数字は「34歳以下計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「34歳以下計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「34歳以下計」より15ポイント以上多いことを示す

・ 高校生以上の子どもがいる層の3分の1が奨学金制度を利用

高校生以上の子どもがいる中高年層に注目してみると、子どもが奨学金を借りている（いた）ケースは3人に1人と少なくない（第0-5図）。さらに、利用率は子どもの人数が増えるほど高まり、子どもが3人いれば4割、4人以上いれば半数以上が奨学金制度を利用している。そして親である本人が連帯保証人であるケースが大半を占めており、子どもの状況によっては返還を肩代わりする可能性もあることになる。

家庭の経済環境によって教育格差を出さないためにも奨学金制度は必要であるが、現在の制度はゆとりがあるうちは何とかなったとしても、一度レールから外れてしまうと途端に厳しい状況に追い込まれてしまうものである。大学進学率の高さから考えると、今後も奨学金制度の利用者は増加していくと思われ、社会的に取り組むべき課題としての重要度はさらに増していくといえよう。

第0-5図 子どもの奨学金制度利用の有無（子どものいる方）



・記入意見でみられる“制度への疑問”と“制度利用時の理解不足”

最後に記入意見でみられた内容を簡単にまとめておく。内容には個々の事情による違いなども当然あるが、その中でもっとも多い意見は、“奨学金なのに有利子で、返還が滞るとブラックリストに載るような制度はおかしい”という制度自体への疑問である。また、“制度利用の際、借りることのリスクをもっと説明すべき”や“借りる前にもっと理解しなくてはいけなかった”などの制度の説明・理解不足をあげる人も多い。

さらに、返還にあたっては“就職がうまくいかず非正規になった場合、病気等で働けなくなった場合などに、厳しい状況に陥る”といった不測の事態における対応の難しさを指摘する声もある。もちろん、“借りたものは返すべきだ”という声もあるが、返すべきと主張する人であっても状況によって対応を変える必要性は認識されている。

教育ローンともいえるリスクの大きい有利子制度の中で、そもそも“大学に進学するかどうかの判断をもっと考えるべき”とする人もみられる。これらの引き金となっているのは、“大学などの高等教育の学費が高い”ことであり、無償化には賛否両論あるものの、根本的な教育のあり方を問う人もいる。大学進学の際の検討や教育改革も重要であるが、教育を受けたいと思う人が受けられない社会にならないよう、奨学金制度の拡充・検討が求められているといえよう。

【参考資料】

＜奨学金の生活設計への影響についての自由記載＞

※すべて奨学金利用者からの意見

【結婚】

- 奨学金＝借金と思っているので、結婚、出産などで一時的に仕事を休まなくてはならないとき家族や配偶者に迷惑がかかるのを負い目にかんじる。 (31歳女性・非正規)
- 借金があるだけで結婚は躊躇してしまう。 (32歳女性・非正規)
- 自分に奨学金と言う借金がある以上、結婚は出来ない。(配偶者に借金を背負わせることになるので…。) このままだと出産時期を逃してしまいそうで恐いです。 (26歳女性・正規)
- 結婚時に、妻に奨学金の事を説明したが、単なる借金と区別がつかないと、理解されなかった。また、若い時は、収入も低く、少々重荷でもあった。 (40歳男性・正規)

【出産】

- 貯蓄がむずかしいため、出産はためられる (29歳男性・正規)
- 出産・子育て中で仕事をしていなかったため返還がとどこおり大変だった。(29歳女性・非正規)

【子育て】

- 妊娠後、仕事をやめたので、主人の収入だけで生活した時、住宅ローンと奨学金の返還が大変でした。 (32歳女性・非正規)
- 20～30代での奨学金の返還は、結婚・子育て等の資金準備の大きな足かせとなっている。 (31歳男性・正規)

【持家取得】

- 持家のみならず賃貸住宅を選択する際も影響している (29歳男性・正規)
- 奨学金の借り入れがある状態で、さらに住宅ローンも組むのは躊躇します。 (28歳女性・正規)

【仕事や就職先の選択】

- 奨学金の返還が確実にできるよう、安定した収入が望める就職先を選んだ。キャリアアップのための転職を考えるにあたり、収入面の不安から思いきることが出来なかった。(28歳女性・正規)
- せっかく大学を出ても地元では就職先が無いので、選べない。やっと就職したと思っても安い給料で、自立すらできない。進学前は希望でも卒業時は絶望に変わった。 (28歳男性・非正規)
- 転職を困難にしている (25歳男性・正規)
- 奨学金の返済がすぐ始まってしまうのに、なかなか就職先が決まらなかった。返せないのは嫌なので、仕事の内容などよく調べずに、とりあえず拾ってくれた所に就職した、という感じ。

(35 歳女性・正規)

【その他】

- 気持ち的なもの、劣等感、このお金があれば…という考え。ちゃんと返還できる会社に就職しなければ、というプレッシャー (25 歳女性・正規)
- 奨学金と出会って10年が経ちますが、頭から離れたことはありません。奨学金返済のためにあきらめなければいけないこと、失ったものはたくさんあります。こんなにも悩むとは思っていませんでした。夢はかないましたが、本当に辛い日々です。 (27 歳女性・非正規)
- 本来は大学に進学の予定だったが返還しながら行くのは苦痛だと思い進学できなかった。 (19 歳男性・正規)
- 日常生活そのものが経済的に苦しかった。就職氷河期のため正社員になれず、非正規雇用（1年更新・いつやめさせられるか分からない）で働いているため返済猶予してもらった時期もある。正社員の夫と結婚してからは余裕ができ、繰り上げ返済をしたが、それが終わるまで将来の貯蓄が全くできなかった。給付型をもっと増やすべきだ。 (28 歳女性・非正規)
- 奨学金と言えば聞こえがいいかもしれないが、結局のところ借金であることには変わらない。借金の返還が終わっていない状況で結婚はまだしも出産や子育てをする余裕はない。家なんてもつてのほか。 (27 歳男性・正規)
- 仕事が決まらなく、返還に困ったことがあり、今も滞納分を払っている。 (31 歳男性・非正規)
- 卒業してからすぐに借金をもっている事は新入社員としては苦しく、すべての生活に影響する。 (53 歳男性・正規)
- 返済がある為、仕事を続けて完済しなければと考え、治療や家事に専念できない部分がある。 (34 歳女性・非正規)

<奨学金制度などに対する意見や考えの自由記載>

【奨学金の制度への意見】

1. 返還について

- やっと就職できても、返還に追われるばかりで、何のために働いているのか…と思う声をよく聞く。たしかに、借りたものは、返すのは当たり前だがそれ以前に、利子、延滞金、ブラックリストといったことが苦しめている。教育を学び、担う若者に対して、もっと希望ある制度になってほしい。というか、おかしい。
(39歳男性・正規 奨学金利用者)
- 教員になってから、奨学金の係をすることがありますが、本当に生徒達が将来、返還が可能なのか心配になることが多くあります。専門学校等に進学後、途中で辞めてしまった生徒達もいるので、きっと返済だけが残っているはずです。簡単に多額の有利子のローンを背負わせてしまっているようで、係をしていても心苦しいです。
(35歳女性・正規 奨学金利用者)
- 現在、在学中（子）であり返還が始まっていないが、就職に目途が立たない状況であり、卒業後は、親（保証人）である自分が返済していくものと覚悟している。
(50歳男性・正規)
- 3人の子の内2人が奨学金制度を利用していました。大学が遠方であったため、この奨学金は本当にありがたいです。但し返還については、とても本人が返せる状況にありませんでしたので、親の私が全額返還することになりました。経済的に余裕の無い世帯ではとても返すことができないと思われます。
(61歳男性・非正規)
- 奨学金の返済が残っているため、結婚や将来に不安があります。学生当時は、奨学金に対する理解が低く、「みんな借りているから」程度にしか考えていなかったと思います。奨学金を借りる前にリスクがあることをもっとしっかり伝えてほしいです。大学・専門学校以上を卒業しないと就職が困難である状況を考えると、返還制度を見直してほしいです。
(28歳女性・正規 奨学金利用者)
- 大学を卒業して就職がうまくいかず、安定した収入を得られるようになるまで何年もかかりました。20年ローンは重すぎる荷物で、まだまだ先が見えません。延滞すると即、延滞金付きで翌月に2ヶ月分を請求される仕組みが、非常に厳しいです。収入がないから延滞するのに、翌月に2ヶ月分払えるのでしょうか。3ヶ月分、4ヶ月分と延滞金付きで雪だるま式に膨れ上がり、消費者金融に…という方もいるでしょう。せめて、支払えなかったら1ヶ月後ろにずらす…などの方法があればと思っています。日本にも給付型の奨学金制度があれば、こんな思いはしなかったのに。
(33歳女性・非正規 奨学金利用者)

- 制度利用当時は、高校卒業時であったため、具体的な返還のイメージが湧いておらず、20年間の返還がどれだけ大変か理解していなかった。しかも、普通は親が用意してくれるものだと思います、用意ができないから、制度を利用し、返還は親がしてくれるものだと思っていた。こうした、未成年で知識の足りない者が、莫大な額を借りるということの認識が足りていないことも問題だと思う。安定した収入もなく、クレジットカードさえも持っていない者が、月々の返還がどれほど占めるのか、影響するのか、よく考えてもらいたい。 (31歳女性・正規 奨学金利用者)
- 借りた時は働いて返済できる予定だったが、現実にはシングルマザーで幼児をかかえ、正職員の道はなく少ない収入で将来が不安。 (25歳女性・非正規)
- 大学4年の時、精神的病気で、休学をし、2年後中退となりました。その後、現在3年経っていますが、通院していて職業に付けられない状態です。しかし、返還しなければならぬため親(私)が返していますが生活が大変です。そのような場合の減免や、減額など出来ないものかと思いません。 (55歳男性・正規)
- 大学4年間と大学院2年間分の返還が一挙にきます。(かなりの返還額で厳しかったです)順次返還(大学分が終わったら大学院分返還)として欲しかったです。公務員をしても厳しいと感じていたため、景気の影響を即刻受ける中小企業に就職した方はもっと大変だと思います。 (46歳女性・正規 奨学金利用者)
- 大学を卒業できても仕事が見つからず、就職できていない人は、どう返していくのか心配です。(知人でそういう方がおりました。) (52歳女性・非正規)
- 現在、大学1年生と高校1年生の子がいるシングルマザーです。長女の大学の入学金、授業料、交通費などは、母子寡婦福祉資金貸付金制度を利用しております。次女もこの制度を使用している大学進学を考えていますが、やはり返済に大変不安をおぼえます。奨学金を給付型にしたいとありがたいです。 (45歳女性・非正規)
- 奨学金がなければ、進学は出来ませんでした。非常に後悔している。これからずっと返還が続くと思うと苦しいです。早く解放されたい。 (30歳女性・非正規 奨学金利用者)

2. 利子について

- 「借りたものは返す」のは当然であるが、利子が付くというのが理解できない。どうしても今はお金がないからその金額を借りるだけなのに、なぜ、借りた額以上返さなければならないのか。もう少し、学生に対して、若い世代に対して、これからの日本に対して配慮できないものか。今までバブルより前の良い時代を過ごしてきた方々がもう少し後の世代のことを考えてくれれば、と思う。 (25歳男性・正規 奨学金利用者)

- 子3人高校三年間、国際交流人材センターから、奨学金を3年間貸与し現在、返済中である。長女、長男は、県外の大学進学の為、日本学生支援機構からの奨学金を利用。社会人となり現在返済中ではあるが、県外で一人暮らしをして働いており家賃額も高く生活は厳しい状況である。借りた分は返すことは、基本であるが、せめて利子の分だけでも、免除にして頂きたい。借金返済が負担になり、婚期も逃してしまいそうで親として心配です。 (53歳女性・非正規)
- 有利子である理由がわからない。公的機関なら無利子で貸すのが存在意義では？ (21歳男性・正規 奨学金利用者)
- 有利子ではなく全て無利子にするべきだと思います。行きたくても行けずに泣いている子供も多いと思います。親も不景気で仕事をリストラされたりしていたら、子供が学ぶ事も出来ないのは不公平だと思います。我家は有利子ですが、卒業して仕事がなかったらどうやって返していくのか不安です。 (57歳女性・非正規)

3. 保証人について

- 保証人が2名必要であるが、親だけにしておいて欲しい。親が亡くなった時には、他の保証人に大迷惑をかける。保証料を払えば良いではないと言われるが、そんな金は払えればそもそも奨学金など借りようと思いません。 (58歳男性・正規)
- 就職状況や収入に応じたやさしい対応をして欲しい。連帯保証人以外で更にもう一人保証人をつけなければならない事には納得ができない。 (49歳男性・正規)

4. その他

- 奨学金を受けた本人が奨学金により困窮するのは本末転倒だと思う。 (41歳男性・正規)
- 高い学歴を得るために自分に投資をして大学等の学費を払うのだから投資に対する責任を自らが持つのはあたり前のこと。それに見合った勉強をしっかりと、返済できるように自らを高めないといけない。奨学金制度がなかったり利用出来ないことが多いのなら問題だと思うが、返せないから問題というのは筋が違う。 (45歳男性・正規)
- 借りたら返すはあたりまえ。制度は強制ではなく利用するもの。利用した結果は予想されるもので補償されるものではないと思う。 (34歳男性・正規)
- 今、大学生の子どもがいるが、奨学金を借りることも考えたが、借金となって、卒業後返還するのが大変だということをまわりで聞いたり、テレビ等で見たりした。借金からのスタートをさせたくないと思い、何とか仕送りしているが、一人稼ぎだったり、親の収入が少なければ、かなわないと思う。勉強したい子に勉強させるためにも、「給付型」の奨学金の枠が多くあればいいと思う。 (53歳女性・正規 奨学金利用者)

- 奨学金制度はこれからも必要だとは思いますが、ブラックリスト登録など、単なる消費者金融と同じことをするなら意味はないと思う。もう少し柔軟な形で支援を進めて欲しい。
(44 歳男性・正規)
- 子供達は奨学金を利用しないと、大学進学出来ない状況であり、仕方なく利用しているものの、親の世代と比べ、学費も高くおのずと貸与額も大きくなっている。卒業と同時に数百万の借金を背負うことになり子供の将来に不安を抱かざるを得ません。給付までいかになくとも、多くの人が対象となる負担軽減策などが望ましいのでは。
(48 歳男性・正規 奨学金利用者)
- 家庭の経済力に関係なく、子どもたちが将来を展望できる奨学金制度にすべきである。お金（国の）の使い方を転換すべき！！
(55 歳男性・正規)
- 高校の段階から、学費以外の出費が多い中で、さらにその上の学校の費用を貯めるのは、とても難しいことです。母子家庭や貧困世帯の子どもさんは進路希望を考える際にも抑制的に選んでいることを感じます。欧米先進国にならって、学費の無償化と給付制奨学金の創設、また、能力に応じた返済のしくみを整えることは、とても重要です。政府がせっせと子どもの夢を潰すようなことばかりやっている。こんな日本が時々イヤになります。せめて教育ぐらいお金をかけてほしいです。
(46 歳女性)
- 大学を卒業しても、非常勤や非正規などの低賃金、短期間の職にしか就けない若者が多いと聞いています。年功序列や終身雇用が約束されない現在の状況で、旧来の奨学金制度のままでは、現状にそぐわないと思います。お金がなくても学べる機会を増やすには、貸与ではなく給与型の奨学金を増やすべきだと感じます。
(41 歳女性・正規)

【教育についての意見】

- 日本の教育費は高い。特に大学の学費を考えると生活を圧迫し、奨学金に頼らざるを得なくなる。結果的に子供に負担をかけてしまう。
(32 歳女性)
- 子どもの貧困や格差（家庭による教育水準の差）が問題になっている今、日本の高等教育は見直されるべきではないかと考える。これからますます格差も広がるのが懸念されるが、それは日本の“知”のレベルが低下することにも繋がるのではないかと思う。
(26 歳女性・正規)
- 片親では収入・人手の不足から十分な教育を受けさせる機会を与えられないことを申し訳なく思っています。収入が少なければ少ないほど親の時間がなく、そのため子に割く時間が減り、子が家庭に割く時間が増え、教育（勉強）の機会を失う悪循環です。家庭の事情に依らずに子どもの可能性を伸ばせる制度づくりをぜひお願いします。
(39 歳女性・非正規)
- 先進諸外国と同等に教育の機会を平等に与えるべき。
(46 歳女性・正規)

- 現在、高校3年生の子がいるので、学費や、奨学金のことを調べました。給付型があまりにも少ないということと、国公立大の学費が高額になっていると感じました。世帯の経済格差が子に連鎖していくと思います。 (44歳女性・非正規)
- 大学の学費が高額すぎるため制度を利用するしかない。このままだと日本は、金持ちのみが有名大学に入り、貧乏人は高度な勉学は受けることすらできない国になると思う。 (48歳男性・正規)
- 経済的に負担が大きい教育のためにかかるお金は、公的に支援されるものであってほしい。お金のある、なしで子供の教育を受ける権利に差があるのはかわいそう。少子化であり、大事に育てていくという観点でも奨学金は無利子にするべきだし、教育はお金を出してくれるものであってほしい。社会全体で子育てしていくべき。 (44歳女性・非正規 奨学金利用者)
- 教育を受けられるということは、日本全体の教育水準を上げることだけでなく、日本の経済に関しても大きく関係してくると思います。経済格差が広がり、教育を受けられない子どもが増え、子どもの荒れにもつながっています。このような状態が改善できるような奨学金制度に変えてほしいと思います。 (46歳女性・正規)
- 卒業とともに長期間の借金を持つこととなるので、兄弟が多い家庭は苦しい。成績や、家庭の状況を踏まえた給付型の奨学金をもっと増やすべき。結局は、“お金のある家”が大学生活を充実させている気がする。そういった家庭（お金がない）のことを、もっと見て欲しい。 (24歳女性・正規 奨学金利用者)
- 教育の差は親の収入に大きく影響され、負の連鎖が代々続く事が多くなっているように感じる。貧困の差が、教育の差や就職の差につながるような救済意義の強い制度の構築が必要と思います。 (39歳男性・正規)
- ヨーロッパでは大学まで個人負担がなく、平等に教育を受けられている国があると聞いたので、日本もそのような方向になってほしい。 (34歳男性・正規 奨学金利用者)
- 大学にかかる教育費負担が大きすぎる。子供の出生率等にも大きく影を落していると考え。賃金の大幅上昇は見込みにくい時代だからこそ、こうした子育てにかかる負担を軽くし、皆がぼちぼちの生活を送れるように大学授業料無償化も含めた検討をすべきと思う。 (33歳男性・正規 奨学金利用者)
- 教育は貧富の差に関係なく、全ての子供に平等に学ぶ機会を与えるべきであり、この機会を失う事は結果として社会的な損失につながると思う。幸にして私は大学を卒業する事が出来たが、経済的理由で進学を断念した人も多くいるはずで、学ぶ意欲のある人が、返済も重荷にならない奨学金制度が設立され、認知されていく事を望みます。 (41歳男性・正規)

- 母子家庭はフルタイムで働いても収入が低い。習い事もさせたいが、させていると貯蓄できない。将来、やりたい事ができた時に学ばせてやりたいが、今のままだと難しいかもしれない。義務教育の間ですら、塾に行かせるのも厳しい。なんとかならないものかと常に思う。経済格差＝教育格差だとおもいます。(44歳女性・非正規)

【生活設計についての意見】

- 就職が厳しい中、返済出来るか不安である。学生時代（大学時代）の同級生と将来結婚したいと本人は言っているが、二人共奨学金を借りており、将来の家計への負担が大きくなると心配している。(50歳女性・非正規)
- 社会人スタートと供に多額の借金を背負う形では、将来への不安が大きすぎると思います。それが結婚、出産への不安にもつながる。また、場合によっては費用（子どもの貧困）の問題につながるのではないのでしょうか。(37歳女性・非正規)
- 両親が離婚をし、大学進学を諦めようと思ったが、先生や親のすすめもあり、奨学金を借りられることも分かり、手続きをしたが、実際返済が始まり出すと、生活の大半を占めている気と、返済への不安（この先、滞納せずに）があり、車の購入やら、この先の結婚などに、大きな割合を占めるようで不安。奨学金がなければ大学も高校も進学できなかったもので、ありがたいと思う反面、金額が高額なだけに、負担を感じる(26歳女性・非正規 奨学金利用者)
- 奨学金を利用させて頂いたことで、子供の将来が大きく変わったと思います。とてもありがたい反面、これからの子供の返済を思うと、家庭を持った時に、経済的に厳しい生活になるのではないかと、不安を感じています。正社員で働ける方は、まだ良いですが、非正規で働くとなると、結婚も出来ないのではないかと将来が不安になります。(49歳女性・非正規)
- 20代の子供にローンを組ませるようなもの。今後、結婚、子育てに、お金がかかる不安もあるが、親も経済的余裕がない。安定した会社に就職してほしいと思うが、今の時代、とても不安(22歳男性・正規 奨学金利用者)

【大学進学についての意見】

- 離島の子どもたちは、大学進学となると必ず、一人暮らしをしなければならず、経済的な負担は大きなものです。奨学金を借りられるのは、大変助かっていますが、返還を考えると、あまり大きな額を借りるのは不安です。せめて、家賃の補助、授業料の免除があれば離島からの進学も楽になるのではないかと思います。現在子どもが借りている奨学金12万/月、4年で576万、有利子なので実際の返還金は700万近くなるのでは。(56歳女性・正規 奨学金利用者)

- 長い返済期間となるので、考えると暗くなります。夢をかなえたい、大学に行きたいが、親の収入が高くなく、むしろ低いです。それでも、行きたいから、利用しました。奨学金がなければ大学への進学は不可能でした。ですが今支払っていて、負担がすごいです。もう少し、無利子にするなり配慮が必要だと思いました。(有利子でした、選考から外れたため)

(25 歳女性・非正規 奨学金利用者)

- 大学に行きたかったが経済的に諦めた。奨学金の返済もムリそうだったので。お金のために夢をあきらめるのは辛かった。親を責めるわけにもいかないし。働きながら通える事もできたかもしれないが。

(45 歳女性・非正規)

【その他】

- アメリカでは、奨学金の返済のために、戦争にかりだされていると聞いたことがあります。近い将来、日本もそうなりそうで怖いです。

(56 歳女性)

- 本当に本人のやりたい事や目的がないのに大学に行っても、社会に出て何をするのかわからない人が多い。あくまでも借りたお金は自分が返す、もしくは、家族が返すのが当たり前だと思います。制度はありがたいですが、返済できそうになれば、利用しない事です。国の税金をもっと大切にしてほしい。

(53 歳女性・非正規)

- 「借りたお金はしっかり返すこと」当り前のことです。教育は無料などありえません。ローンを持つことにより、仕事もがんばる。何もかも与えては、仕事もしない大人になってしまいます。甘い考えはダメです。

(45 歳男性・正規)

- 返済できなかった時にどのようなようになるかをもう少し教えるべき。先生達は進学率を上げたいので、奨学金の利用を促すが、「借金のすすめ」を同時に行っている事を自覚してほしい。先生に対する奨学金教育も必要だと思う。

(47 歳女性・非正規 奨学金利用者)

- 日本育英会のイメージしかなかったのが、現実を知るにつれ、社会的なものとして促えていかないと、貧困・格差をさらに助長していくのではと危惧する。

(58 歳男性・正規 奨学金利用者)

- 子供が少ないと騒がれている世の中なのに教育にかかる費用がやはり模大だと思う。もっと子育てにやさしい世の中になって欲しいものです。

(43 歳女性・非正規)

- 学費を学習者又は家庭に負担させず、社会が負担し、「学習したい」という意欲が金銭面という外部要因によって阻害させてはいけないと思う。学習者が得た知識や技術、情報によって我が国の成長が支えられているということを忘れてはいけない。他国の経済成長等に対抗するためには、教育・学習によって国民の力の底上げが必要であると思う。

(28 歳男性・正規)

- 海外出張時、取引先の米国人に、「お前のは奨学金ではなくローンだ」と言われた。全くその通りだと思う。日本には世界で言う意味の奨学金はほとんどない。返すことで有難みがわかるということもあるので返す必要があること自体が悪いとは思わない。ただ、返すのならば、せめて利子がつくのならば、奨学金という名前はやめるべきと思う。その上で、正しい意味の奨学金を増やして欲しい。
(36歳男性・正規 奨学金利用者)

- 学びたいければ自分で決めて進学しろ、と当時言われましたが、就職難の時代に高卒で放り出されるか、進学して奨学金という名の借金を背負うかの2択でした。働きだしてすぐ、周りが数百万円の貯蓄がある中自分は貯金もなく毎月の返済に追われていました。子供たちにリスクを説明しても、日本の学校の学費の高さが変わらなければ根本的な解決にはつながらないと思います。
(34歳女性・正規 奨学金利用者)

- 奨学金が貸与され、返済義務を負うことは、若者の未来にとってリスクになることも考えられるが、高等教育を受けた責任・社会への還元の可能性を認識させることになるとも考えられる。安易に給付や無利子にすれば良いとは思えない。
(28歳女性・正規 奨学金利用者)

- 奨学金を担当する教員の仕事は、相当大変です。特殊法人とはいえ、一企業の仕事を公的な形になぞらえて教員が行うのはナンセンス！県にも奨学金について（支援機構の…）担当する部局がないのに、なぜ出先の学校ではあたかも公務として行わなければならないのでしょうか？
(59歳男性・正規)

- 若者の雇用や収入が不安定な中で貸与型奨学金制度が主となっていることに疑問を感じる。個人情報に延滞登録されれば、クレジットカードや、ローンの借入も難しくなり、さらに苦しい生活となる可能性もある。若者が安心して学び、社会へ出て働くことができる制度・仕組み作りしながら、それに合わせて奨学金制度（給付型を中心とした）を設ける必要がある。
(30歳男性・正規)

- 奨学金を学校で取り扱うのはやめ、日本学生支援機構がすべて責任を持って説明すべきである。学校で受付して、直接個人で窓口に行くべきであり、学校が関わるのはおかしい。関わるなら、専門の事務員か事務がすべきです。授業や部活動を持ちながら、あの事務は片手間のできる範囲を超えていることを理解してほしいです。そして奨学金はできるだけ借りないように指導することが必要です。借金を背負うのですから。
(47歳女性・非正規 奨学金利用者)

- 教育の機会均等の原則を保証すべきです。奨学金の返済のために、司法研修所への入所を見合わせた若者がいます。社会の損失です。
(63歳男性・正規)